

平成29年第1回 大山崎町地域創生推進会議

平成29年10月10日（火）午前11時00分から
大山崎町役場3階中会議室

1. 開会
2. 委員委嘱状の交付
3. 大山崎町長あいさつ
4. 委員の紹介
5. 座長の選出
6. 議事
 - (1) 会議の運営について
 - ①会議の公開について
 - ②会議録の作成・公表及び委員名簿の公表について
 - ③会議の進め方について
 - (2) まち・ひと・しごと創生総合戦略について
 - ①大山崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略等について
 - ②国における地方創生の状況について
 - (3) その他
7. 閉会

【出席委員】

青木委員、有賀委員（座長代理）、奥野委員、鳥居委員、並川委員、西河委員、深尾委員（座長）、三浦委員、南委員

【その他出席者】

森氏（西日本旅客鉄道（株））

【事務局等】

山本町長、杉山副町長、蛭原総務部長、斉藤政策総務課担当課長、池上企画観光係リーダー、松井企画観光係員

【傍聴者等】

なし

1. 開会

齊藤政策総務課担当課長から開会。

2. 委員委嘱状の交付

山本町長より、各委員に委嘱状を交付した。なお、任期は、本日から平成31年3月31日までとなる。

3. 町長あいさつ

- ・公私ご多忙の中、皆様には大山崎町地域創生推進会議の委員をお引き受けいただき、誠にありがとうございます。
- ・大山崎町第4次総合計画や、大山崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、皆様のお力をお借りして、えがおと活力あふれる大山崎町をつくり上げてまいりたいと考えております。
- ・委員の皆様には、2年間委員の職にご尽力を賜ることとなりますが、よろしく願いいたします。

4. 委員紹介

各委員の紹介を行った。また、事務局職員等の紹介を行った。

5. 座長の選出

座長の立候補、推薦がなかったため、事務局より座長を指名し、深尾委員が座長に就任した。また、深尾座長より、座長代理を指名し、有賀委員が座長代理に就任した。なお、委員紹介後、鳥居委員、山本町長が退室した。

6. 議事

(1) 会議の運営について

- ①会議の公開について
- ②会議録の作成・公表及び委員名簿の公表について
- ③会議の進め方について

本議案について、事務局からの趣旨説明の後、各委員で審議を行った。その結果については以下のとおり。

①会議の公開について

原則として公開とする。

②会議録の作成・公表及び委員名簿の公表について

会議録を作成し、公表する際の会議録の発言者については、氏名を記載せず、座長、座長代理、委員と記載し公表する。また、委員名および委員名簿についても公表する。

③会議の進め方について

今後の本会議については、座長により招集する。

(2) まち・ひと・しごと創生総合戦略について

主な内容は以下のとおり。

①大山崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略等について

【事務局】

資料1「大山崎町年齢階層別人口・高齢化率の推移」及び資料2「大山崎町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の進捗状況、資料3「地方創生加速化交付金事業について（平成28年度）」、資料4「地方創生推進交付金事業について（平成29年度）」により説明。

【座長】

まず、これまでの状況や課題認識について、意見や質問等あればお願いします。

【委員】

子ども人口について、宅地開発による転入者の増加に加え、現在住んでいる方に対して何か子ども人口が増加する取組みはないのか。また、資料3ページの「施策①出産子育てがかなう環境づくり」の項目内の病児・病後児保育の利用者数について、780人は目標値ということか。

【事務局】

本日、配布している「大山崎町に住もう」を刊行し、子育てがしやすいまちとしてPRしている。また、待機児童0人を目指し、継続させていく取組みとして、民間活力を活かし、受け皿整備に取り組んでいるところである。

病児・病後児保育の利用者数については、780人の受入が可能であることを示しているもので、平成27年、28年と目標値以内の利用状況となっている。

【委員】

資料5ページの「施策②観光資源の発掘・創造から観光資産への促進」の項目内の外国人宿泊者の基準値が17人と少ないがどのように算出したのか。

【事務局】

町内において宿泊施設が1つだけあり、平成25年に17人が宿泊したということか

ら17人と設定した。しかし、近年、京都市域の観光客数の増加に伴う波及効果により、町においても100人を超える宿泊となっている。

【委員】

資料7ページの「卸・小売業の事業所数、従業員数の拡大」に卸・小売業の事業所数の新規創業とあるが、近年の新規創業は、サービス業がほとんどと認識しているが、どのように数値を拾い上げているのか。

【事務局】

経済センサスの調査結果から数値を拾い上げている。

また、最近では、駅前の飲食店が閉店したが、町商工会からのご提案により、その場所に新たに飲食店を出店いただくなど新規創業の協力をいただいている。

【座長】

今後、全国の課題であるが、健康活動にどのようにつなぎ合わせて政策を実施していくのが重要である。

【座長代理】

大山崎町の観光事業を推進する組織体制として、目標として挙げられているとおり大山崎町独自の観光協会の設立が重要であると考えているが、現在の状況はどのようになっているのか。

【事務局】

町独自で観光協会を設立することは厳しく、設立には至っていない。しかし、現在、京都府から支援いただき昨年度から長岡京市、向日市とともに構成している乙訓商工・観光協議会において、乙訓全体で観光PRを実施し、地域資源を活用して将来的にDMOの設置に向けた検討を進めようとしているところ。

【座長】

従来観光協会の設置にこだわらなくとも、新たな地域資源を深掘りし、町独自の観光PRできるものとして設立することは重要である。DMOの取組み状況について、ゼミで調査したところ、単に補助金があるので実施しているという回答が多いので、大山崎町は町独自に地域の力を引き出すように取り組んでいただきたい。

【委員】

外国人観光客の人数は把握しているのか。また、周辺地域の中で外国人観光客が多い

場所はどこか。

【事務局】

唯一の宿泊施設に確認し、台湾、韓国、中国などの東南アジアからの観光客が多いことは把握しているが、宿泊以外の外国人観光客について明確な数字は把握できていない。ただ、外国人宿泊者数が100人を超えているということからその倍以上の外国人観光客が来られていると予想される。また、周辺地域の外国人観光客としては、島本町のサントリー山崎蒸留所への観光が非常に多い。

【委員】

以前、NHKの朝ドラでサントリー山崎蒸留所が舞台となったときに周辺を案内することがあったが、大山崎の駅周辺に満車も含め駐車場が少なく非常に苦慮した。大山崎と言えば天王山というほど認知されているため、もっと天王山をPRしていくことが大切であると考えている。

【座長】

他の自治体では、人が来ないということが課題となっているが、これまで話を聞くかぎり、交通の便や天王山により人の流れはあることがうかがえる。ただ、一人あたりの観光消費額が平成28年度262円ということであるが、どのようにお金を落としてもらうか、また、どのようにして地域資源を活用していくのかが課題である。

【委員】

民泊施設はあるのか。

【事務局】

町内で簡易民泊を含め民泊施設は捕捉していない。昨今、旅館業法が厳しい中、住宅地に民泊営業を可能とする住宅宿泊事業法の制定が進められているところである。今後、地域のトラブルに配慮しつつ、法律に沿って空き家を活用していく必要があると考えている。

【委員】

ただ、夜にスーツケースを運ぶ音など地域住民の方に迷惑となることも考えられる。よっぽど観光事業で利益をあげていかなければならない状態でないのであれば、民泊営業など急速に変化する観光施策を無理して進めていくことはないと考えている。

【座長】

たしかに、民泊も必要なことであると思うが、地域住民の生活域にも踏み込まれることであるので、町がどこまで誘致に取り組むのかということについて検討していく必要がある。大山崎町民にとってほど良い質と量のバランスを数値からモニタリングし、様々な目線から町の観光施策の有り方を考えていくことが必要である。

②国における地方創生の状況について

【事務局】

資料5「地方創生加速化交付金」及び資料6「地方創生推進交付金」により説明。

【座長】

国が用意しているお金を上手に利用し、地域のポテンシャルを引き出すような地方創生につながる取組みをしていただきたい。

(3) その他

【事務局】

本日、ご都合により、ご欠席されている方については、後日委嘱状をお渡しさせていただきます。また、本日、審議いただいた内容については、事務局により会議録を作成し、委員の皆様にご確認いただくのでよろしくお願いをします。

【座長】

これで議事は終了とし、事務局にお返す。

7. 閉会

【事務局】

それでは、これをもちまして、第1回大山崎町地域創生推進会議を閉会とする。

以上